

令和3年度第1回那珂市総合教育会議 議事録

- 1 日 時 令和3年7月12日(月)
午前9時30分～午後12時00分
- 2 場 所 協議事項(1) 木崎小学校会議室
協議事項(2) 那珂市瓜連支所 2階 会議室
- 3 出席者
(構成員) 市長 先崎 光 教育委員 住谷 光一
教育長 大縄 久雄 教育委員 中澤 明
教育長職務代理者 榊原 一和 教育委員 小笠原 聖華

(木崎小学校) 校長 松下 由美子
教頭 高村 啓子

(事務局) 【総務部 総務課】
総務部長 川田 俊昭
総務部総務課長 会沢 義範
課長補佐(総括) 飛田 建
課長補佐(総務グループ長) 小泉 友哉
総務グループ主幹 鹿志村 裕太
【教育委員会教育部 学校教育課】
教育部長 小橋 聡子
教育部学校教育課長 会沢 実
課長補佐(総括) 平野 玉緒
副参事兼指導室長 臼井 英成
課長補佐(総務・再編グループ長) 生田目 綾子
【教育委員会教育部 生涯学習課】
教育部生涯学習課長 田口 裕二
副参事(社会教育主事) 羽石 康弘
課長補佐(総括) 柴田 真一
- 4 会議次第
 - 1 開 会
 - 2 市長あいさつ
 - 3 協議事項
 - (1) G I G Aスクールの進捗状況について(現地視察:木崎小学校)
 - (2) 「特色ある教育活動(那珂市版学校運営協議会)」の取り組みについて

- 4 その他
- 5 閉会

5 内容

(1) G I G A スクールの進捗状況について（現地視察：木崎小学校）

○会沢総務課長 総務課長の会沢でございます。

今総合教育会議においては、既に次第を配付させていただいておりますが、協議事項の（1）としまして「G I G A スクールの進捗状況について（現地視察：木崎小学校）」をあげさせていただいております。

5月に各学校の児童生徒にタブレット端末の配置が終わり、授業においても活用が始まっていると聞いております。本日は、木崎小学校にご協力いただき、タブレットや電子黒板などのICT機器を活用した場面などを視察させていただきますので、よろしくお願いいたします。

なお、視察が終わりましたら、こちらの会議室にて質疑及び意見交換を行いまして、その後、瓜連支所に場所を移動し、協議事項の（2）「特色ある教育活動（那珂市版学校運営協議会）について」を協議してまいりたいと思います。

よろしくお願いいたします。

～視察～

○会沢総務課長 皆様お疲れ様でした。

それでは視察内容について、感想でも疑問点でも結構です、皆様から何かありましたら、よろしくお願いいたします。

なお、お時間は大変申し訳ございませんが10時15分を目安とさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

○住谷委員 今授業を見せていただいたんですがiPadを使っていますがと違った授業形態でやられていて、それから気になっているのは、距離ですね。

おそらくこれ、だいたい30cmなんですけれども目安で、見てたら30cmで見ている人はほとんどいないんですよ。ですから、視力の問題がでてくるんじゃないか。あと集中しますと、姿勢を崩してきますよね。

ちゃんと人間には形があるものですから、姿勢的に背骨をまっすぐにしていないと。そういう健康面での対策が必要になるんじゃないかと思えます。

○**榑原委員** ちょっといくつかの小学校さんで端末を利用されている授業を拝見させていただきました。やっぱり端末の操作的なものや台数がですね。今の段階ではまだやっぱり得意な子とそうでない子が出てきてしまっている状態です。

○**松下校長** はい、それはありますね。
特に小さい学年のお子さんにはあるように見えます。

○**小笠原委員** タブレットを宿題に使っているのはどれぐらいありますか？

○**高村教頭** そうですね、本校では、週末持ち帰っています。
2年生の授業が家庭に持ち帰って夏を感じるものを撮ってきていると思います。
おうちの周りにあるものを撮っておいで、というふうに情報収集などに使っているということがありますが、今のところ i P a d に慣れるという形で週末、出しています。

○**中澤委員** 今日、教科のところで見させていただきましたが、今電子黒板の活用状況ということでやはりきちんと使われてたかなと思います。
あと、i P a d について低学年の場合は、今教頭先生がおっしゃったように慣れるっていうかですね。
今日なんか見てみますと、2年生なんかの国語は、自分の家で写真を撮ってきたさいだとか、そういうふうな感じからの活用の仕方かなと。
あと4年生の算数の場合は、タブレットを使ってうまく図形を動かす、こういうふうなところは、見ていて少しずつ慣れたかなと思います。やはり、高学年5、6年生は、うまくひとりひとりが使えているのかなあっていうふうに感じました。
まあ5月末に導入されてからで、やはりまだ使いやすいという感じではないですけども。この夏、先生方が研修されて、いろいろな学校からの使い方なんかの情報交換があると思うんですよね。
その中で、ひとつレベルアップした使い方ができるんじゃないかなあっていうふうなところだと思います。
5月の段階で導入されてからここまで、普通なら、教室の片隅に置かれて、なかなか活用っていうふうなまではいかないんじゃないかなあというところでよく使っていると思います。

○**先崎市長** 少人数の学級なので、理科の授業でも1人1台っていうことで恵まれたっていうか。少人数がゆえに何でしょうけど、例えば1学級35人だとかね、先生の目がやっぱりどうしても全部まで十分に届くわけじ

やない。他の学校と比較すると大変でしょうけど感じとしてはやっぱり少人数がゆえに細かく指導できていると認識していいんでしょうか。

○高村教頭 最後の6年生の授業などは、子供たちがつくったものが一つの画面に収まります。そのときに、大きい学校だと、何分割かして出していく状態だと思うんですが、やはり15人ぐらいですので1回で、スペースに収まりますので市長がおっしゃったように全体の場面でどの子が今、同じような画面にいてないかっていうことを、教師の親画面でチェックすることができるので、そこに指導に入ることができる。そういう意味では大変本校は恵まれているのではないかなと感じています。

○松下校長 1人の指導者が関わられる子は限られているので、十分な指導ができるかと思います。

○小笠原委員 すいません。もうひとついいですか。学校の集会とか委員会活動の中でICTを活用してる事例はありますか。

○高村教頭先生 4年生担当の職員が、本校のICTの担当なのですが、そういうところは積極的に試してくれておまして、例えば、連絡帳はiPadで発信して、朝の会で確認する。あと、もうこのぐらいの人数だったら普通に朝の会なんですけど、iPadを使って、zoomで朝の会を行う。また、今度ICT集会をzoomで結んで集会をやる予定でいます。

○大縄教育長 多分、事務局は学校の授業を見ることはないと思います。そういう中で実際にタブレットを配置させていただいて、その状況です。私も教育委員会の担当の職員に皆さん見に行きなさいって言っているんです。我々、市としてもきちんと考えるべきだと思うんです。配置したから整備したから、あとは学校に任せるのではなく、じゃあ、学校はどう使ってるんだろうなというの、私は見に行くべきかなと思っています。個人的には、こちらはある程度、学校現場はわかってるものに行くわけです。市長や委員さんからでた貴重な意見は、委員会としても指導室としても、当然予想されていることです。それが課題でありますし、学校も今すぐ取り組むことです。これからなんですね。いわゆる活用をしていく。率直な意見は逆に私どもよりも、事務局のほうがでるのではないかと思います。

○小橋教育部長 授業の中で形を貼り合わせようというやつで自分たちもいろいろあったんだと、お道具箱出したりして。ICTは便利で楽しいんだろうけど、リアルな体験がどのくらいなくなっちゃうのかというのが印象に残ったんです。教室にいて、先生に視線がいかない、先生が何かを

言っている画面を見てる。私にとってはその2つが寂しい。多分これからICTを活用していくために、まず慣れさせるということで様々な活用をしていますが、そのうち本当にいいとこどりをしながら進められたらいいなという印象です。

○川田総務部長 どのくらいの割合で使っているのか。でた話にもなるんですけども。慣れるのが一番でしょうけど授業以外でスマホをいじっているのと同じで、ずっと続いてしまうとまたそれも弊害があるし、そういうところはどうかかなと思いつつ見ていました。

どうしたほうがいい、どうして欲しいというものはないんですけども、iPadにしてもスマホにしてもそここのところは似たような話になるので、そこを踏まえて、どのようにしていくのかは、心配であり期待でもあると思います。

○高村教頭 毎時間毎時間使っているということではないですし、1時間の中に、この部分だけという使い方はしています。iPadがないと教科書の後ろにある、ひし形を一生懸命みんなで切って、貼って、ただその時間をiPadなら一気にできるので、先生方はその1時間の授業の中で、ここで使おうとか今日は1日の中で、ここでiPadを使おうというような形で今は進めている。全然使わないわけでもないですし、今までノートに書いてきた学習、体験授業を取り入れながら。

○榊原委員 学校教育の場なんで、やっぱりそういう視点で見ることにはあることはあるんですけど、私はいろいろ見させていただいて、今先生がおっしゃった4年生でzoomで集会をしようとしているところなんだけども、社会にでて、事務局の方だったら役所の中とか、地域でいろいろとちょっとやらせてもらったりするとかあるんですけども。

コロナになって初めてちょっと気づいて、もちろんこういった集まりにださせていただいて気付いて、自分の私生活の方でもやっぱりこういったものを活用することによって、ものすごく合理的、画期的なものができる気づかされたのが正直な話です。

○会沢総務課長 木崎小学校の校長先生をはじめ、先生方にはお忙しい中、御対応ありがとうございました。この後は、委員の皆様は瓜連支所に場所を移動いたしまして、会議を開催いたしますので、よろしく願いいたします。

(2) 「特色ある教育活動(那珂市版学校運営協議会)」の取り組みについて

○会沢総務課長 皆様、現地視察お疲れ様でした。早速ですが会議に入る前に、まず資料の方の確認をさせていただきます。

(配布資料の確認)

○会沢総務課長 それでは、改めまして、令和3年度第1回那珂市総合教育会議を開催いたします。

本日の会議進行でございますが、協議事項として2件でございます。1件目が次第3番(1)としまして、「GIGAスクールの進捗状況について」になります。

こちらは、先ほど木崎小学校にて現地視察をさせていただいた内容となります。

ここからは、次第3番(2)の「特色ある教育活動(那珂市版学校運営協議会)の取り組みについて」の協議に入りたいと思います。

今回は、初めに、市内小学校の中で、小規模ではありますが、地域と連携した教育活動に取り組んでいる緑桜学園木崎小学校と青遙学園額田小学校について事務局より報告させていただきます。報告が終わりましたら、市長と教育長及び教育委員の皆様でフリートーキング形式で意見交換を行いたいと思いますので、市長の考えや教育委員の意見などを自由にお話いただきたいと考えております。よろしく願いいたします。

それでは、協議事項に入る前に、先崎市長より、ごあいさつをお願いいたします。

○先崎市長 皆さんこんにちは。

今日は木崎小に行ってGIGAのスクールの現状ということで見させていただきました。ありがとうございました。ICTの活用によって、全ての子どもたちの学びの保障ができる環境を早急を実現するためということでもありますけれども、現場を見ると、先生方のご苦勞、それぞれの家庭の状況とかですね、いろんな課題があります。お話の中で夏休みにまた先生方がさらにスキルをアップしてなんていう話もありました。先生方もどんどん変わってきますので大変でしょうけれども、やっぱりそういったものをとらえて、新しい時代に対応したICTの活用という面で、これからご努力いただかなければならないというふうに強く感じました。先ほど事務局からありましたように、特色ある教育活動、那珂市版学校運営協議会の取組ということでございます。一昨年にこの会議で、小中学校の適正規模、適正配置について、議題として、意見交換をさせていただきましたけれども、学校の小規模化に伴う課題、これからも、色々なところで出てくる。これが現実ではないかと思っております。学校を中心とした地域コミュニティ、これとの関係、子どもたちの教育環境をいかに確保するかっていうのは大事な観点であります。先日、利根町の町長選挙に行きまして、利根町とい

う町ですら35人になったそうですね。3つあった小学校を一つ統合する。今回2期目に挑んで、他に3人が出ました。3人は統合は見直した、ストップだということ、大きな論点になった。結果としては、統合を目指す現職の町長さんが当選をされました。35人という子どもたちを三つの小学校に分散して、果たしてどういう教育ができるか。減るかもしれない。あるいは行政の施策のやり方によって子どもをもっと増やす、現場は大変です。振り返ってみれば去年は学校が休校になって非常に暗中模索、情報が少ない中で、そういった対応しました。しかし、現在は、いろんな観点をとらえて、学校が、教育委員会の皆さんあるいは教育委員の皆さん、いろんな方がご苦労されて、現状スムーズにいったるかなと思ってます。しっかりやっていただいている結果が、そういう結果になってるというふうに思っていますので、どうぞこれからも力とさせていただければ、そのように思っております。限られた時間でありませども、本日の議題について有意義な時間が持てますよう、心からお願いを申し上げまして挨拶とさせていただきます。

○会沢総務課長 それでは、この後の次第3協議事項につきましては、那珂市総合教育会議設置要綱第4条の規程に基づき、市長が議長となりまして、会議を進めていくこととなります。それでは、市長よろしく願いいたします。

○先崎市長 それでは要綱に基づき議長を務めさせていただきます。どうぞ円滑な議事進行にご協力をお願い申し上げます。

なお、本会議につきましては、規定によりまして、原則公開となっておりますので、公開で行いたいと存じます。どうぞよろしく願いいたします。それでは早速、お手元の次第に基づきまして協議に入ります。次第3番の協議事項の(2)「特色ある教育活動(那珂市版学校運営協議会)の取り組みについて」を議題とします。

事務局から説明をお願いします。

(生涯学習課より本市における、特色ある教育活動(那珂市版学校運営協議会)の取り組みについて説明)

○先崎市長 ただ今、2つの小学校における取組について報告がありました。これを踏まえて、このあとは、皆様とのフリートーキングを進めていきたいと思っております。

報告の中では、子ども達が少ないなかでも、地域の方々が一生懸命支えていこうという姿や、人数が少ないからこそきめ細かく寄り添った指導をしようという姿勢など、伝わってきました。

皆様からも、このプレゼンをご覧いただいた感想などいただければと思いますがいかがでしょうか。

○中澤委員 小規模校の強みという中で、一人一人のきめ細かな指導を、今見てきた場合において木崎小学校さんなんか人数が少ない場合にきめ細かな指導っていうのは、あるかなと思うんですけど、もうひとつ人数が少なくて困るのは、話し合いの活動だと思います。

活気がなくなって人数が少ないと話す人は、この人とこの人というふうな仲間内で決めちゃうようなそういうケースが出来ちゃうので。

そうすると少人数指導、きめ細かな指導という学校経営の効果はあるんだけど、その裏側のところでも、子供の活気っていうふうなものを考えた場合には、ある程度の人数っていうのは必要じゃないかなと考えております。

だから、木崎小学校のようなところが今後どうすべきかっていうところで、言われたことがあるのですが、私、あそこに勤めていた経験があると校長先生にはお話したんですが、やはりあその場合は、コミュニティと地域との連携という中では、金銭教育とか、伝統芸能教育っていうのもありまして、私たちのときにおいても、金銭教育においては、子どもたちが全部、郵便局の真似事をして、全部お金を扱って、近くに郵便局があるものですから、そこのところの局長さんに来ていただいて取り組んだ形でやったっていうこともあった。やはりその地域の連携で模索をしていくしかないのかなあっていうふうに思います。

○住谷委員 中澤委員のほうから、示されたと思います。

私も言おうかどうか悩んだんですけども、ある小規模校に伺っておりまして、どうしても話す相手が決まってくるんですよ。

大勢の前にでていったときに、自分を表現できないという気がします。

確かに地域でまとまって、地域の方々との交流が盛んで、それはそれでいいんですけども、他に行ったときにどうも元気がない。これが見えてわかるんですよ。常にひっこんじやうんです。

その近くに大きな学校がありましてその学校は一学年10人くらいしかないんですけど、大きな学校は一学年100人ぐらいいて。これは焼き物なんですけど一緒に作業するということを考えました。

大規模校の生徒をひとりひとり間に入れて、やっていく。現在進行形ですが。明らかに生徒が変容するのがわかるんです。

そういう、小規模校でまとまるのもいいが、世の中に出て行って活躍する場合、子どもたちが自分たちで道を切り開いていくにはやっぱりその体験が非常に大きい。木崎小も額田小もそういう体験を大人たちがつくってあげないと、子供たちは萎縮してしまう。

そこはちょっと考えていけないといけない。

○**榊原委員** 私は在住が額田なものですから、12年ちょっと額田小学校と付き合いさせていただいて、10年前から約100人ぐらい児童数が今減少しているような状況です。

映像で見ていただいたとおりなんですが、それ以外にも、額田は個人的な商店がまだまだ存在する地域であって、そこと連携しながら色々な学びを得ることができる場所もひとつの特色なのかなと思います。

聞いていますと逆に言うと、分母が小さい分、自己表現が非常にしやすいような傾向もあるというふうに思っています。

普通、大体1クラス40人いたときに、静かな子が1回も発言できない場が出てくると思うんですが、20人前後のクラスですので、性格的に物静かな子であっても、やはりほかの学校に比べると自己表現が非常にしやすい、周りもずっと一緒に来てるわけですから、そういう意味では非常にいいところも見え隠れしてることは事実だと思います。

ただやはりずっと思ってることなんですが、教育においては数は力かな。やっぱり多いほうが力になるのかなというふうには思っています。

○**小笠原委員** 感想は皆さんと大体同じですので、ちょっと別な視点で、まずGIGAスクール構想も先ほど拝見した木崎小学校の場合、保護者にしても地域にしてもそこをICTでやることでメリットがあるんですよという、そういう何かでアピールする視点もいいのかな。先ほどの校長先生のお話の中に、ICTの担当の先生がいて、かなり詳しくいろいろやっているっていうお話を伺ったので、今後、今の2、3年生が4、5、6年生になったときにさらに保護者は複式学級であるけれども、ここでは大丈夫ですよという。その心配が解消できれば、いいのかなと。もちろん、活動も複式や小規模校でも、うまくできないかなという。

当然、この小規模化を考えたときに、子どもの数をどう維持するかっていうので。転入を目指すのか、それから出生を増やすのかって、各自治体で。あとはですね、個人的な意見で申し訳ないのですが、子育ては、大変なときは人にやらしてもらえばいいっていう持論がありまして、那珂市に転入すると、小さいところは小さいところに技術を使って、それで地域差を感じさせない水準の教育を受けられるんだよってということと、小さいうちはもうどんどん預けられるから、預けてそしてどんどん外へ働きに行って住むにはこのコンパクトさはとってもいいことを同時に考えながら、コンパクトな市としても周辺に大きな自治体に囲まれながらも、どのように独自性を持っていくのかっていうところが、最終的には市の学校の小規模化を食い止めるということと、それから食い止めなくても、小さいところの連携で大きな活動ができるっていう。

○先崎市長 木崎小学校に行きましたけども、2年前の教育会議で、私も申し上げたと思うんですけども、本米崎小学校もなくなって地域の人々の疲弊感が増してしまっただけというところで、いろんな議論をしたんでしょうけども。かといって特効薬はない今、先生方がおっしゃるように、やっぱりなかなか根本的な解決は、児童数が増えないとどうしようもないんですけども。

そういった中でもどういうふうにしていくかっていう、教育サイドとしての考え方、あるいは地域振興の中での考え方というのは色々あるような気がします。

先ほど少なくなることで色々な弊害があるんじゃないかとありましたが、たくさんの方が触れ合う中で、子供たちが磨かれる、切磋琢磨していくというのは、理想なのかもしれないですね。

ただ一方では、例えば35人、たくさんの子どもがいると1人の先生の目が届く範囲というのは限られてしまいます。

授業中ももしかしたら1回も発言しない、手を挙げないで終わってしまう場面もあるかもしれない。

そう考えると小規模校は、今日見てきたようにどの子にも目が届くというか、日立市は、ご存じでしょうけども、あと数年後に小学校の数を半分にするそうですね。これも大改革なんでしょうね。

前に、十王地区にあった山部小学校を見たときに、統合しないで頑張っていた。地域的な理由もあるんですよ。十王地区の山の方であって、なかなか他と統合しづらい。市のほうも、先生方を入れて、複式学級なんですけども指導をして、そのとき当時、教えていただいたときには、学力は日立市でトップでした。

くまなく手が行き届くからという説明をしていましたけども、しかも卒業生は十王中学校に行くんですけども、十王中学校でも生徒会役員やったり、部活では運動部の主将をやったり、頑張ってる子どもが結構多いですよっていう話をされてた。あと地域の方々が非常にこう手厚くやっている。

額田とか木崎と同じですね。みかん園が近くにあるんですけども、そういうみかん園の収穫作業とかそんなものを子どもたちにも体験させたりして、非常に地域色豊か。統合にあたって心を悩ませる時間が過ぎたんじゃないかなと思うんですけども、ただ、結局今後どうするかっていうことを考えなければならないので、その地域の方々はそれぞれ前に向かって進んでいかなくちゃならない。

ただ幸い那珂市の場合には、そこまでの状況にはなっていないのかなということで今皆さんがおっしゃったように、工夫をすれば形を維持できるのかなという気もしますし、我々行政の方もそうでありますし、教育サイドの方もそうでありますし、地域も、一つの方向性が見えればいいなという感じがしています。

○住谷委員 児童数の減少、那珂市の地の利を活かすとしてひたちなかや高速道路、畑や田んぼがあり、次に企業誘致とかですね。行政サイドの取組みもひとつの解消する要因なんじゃないかと私は思うんですけども。

人を集める工夫というのにも影響があるんじゃないかなっていう、前々から思ってるんですけどもね。

市長さんばかりでは出来ないでしょうけど議員さんも、少し協力していただいて、もうちょっと那珂市の活性化に何ができるかというそこをやる限りは、今の人口の問題は解決出来ないと思います。

なかなか市長に申し上げる機会もないので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○榊原委員 私も那珂市に20年から住んでるもんですから、いろいろ思うところがありまして、日本全体の人口の話で言うのも、間違いなく減少傾向にある。

市町村レベルの話で言えばもう、近隣市町村の人の取り合いになってくるのかな。行政側から、そういった誘致をして、人を呼び込むような施策をしたほうが良いという話だったんですが、那珂市の人口流動を見てみると若干やや微増している。多分5年前の統計から反比例してる場所があるんですけど。これは実際には、那珂市役所が何かしたのか、こういうことではなくて、あくまでも、民間サイドが、那珂市の有益なところをアピールした。分譲住宅ですよ。

この前、菅谷西小学校に行ってきたんですけども、3階から、ちょっと景観を見渡したところ、10年前は菅谷西小学校の周りは森林だったんですよ。

あそこを全部開いて造成があったんですよ。おかげで今じゃ、教室が足りない勢いなのかな。そういったところも加味しながら、本当に人口問題に関しては真摯に捉えなくちゃならない。そういうふうになります。

教育の面でいうと、うちに5年生の娘がいるんですけども、5年生で初めてSDGsをリアルタイムで学んでたんですよ。貧困と教育、なぜ発展途上国がいつまでも発展しないのか、やっぱり結局教育の重要性なんですよ。うって実に重要性がある。

やはり福祉と教育って非常にやっぱり行政側としては、市長からすると実にアピールポイントになるところがあるから、というふうには思っています。

どこでもやっぱり特色を生かした形で常陸太田市さんでも常陸大宮市さんでもやってるけど同じことをやってもやはりなかなか難しいところがあると思うんで、那珂市独自のそういった施策を考えながら、発展を結びつけていけたら、那珂市はさらによりよい街になると思います。

○先崎市長 リアルな話なんですけども、那珂市は人口動態としては、横ばいに近いですね。

ですから、特に若い世代も結構移り住んでくれますので、地域差もありますけども、確かに菅谷西小学校の周辺なんかはどんどん家が建って、そういう民間さんの努力もそうでしょうし、あとは社会全体的には上がっている。

しかも、晩婚化が進んでいるので、子どもをたくさんつくらないという傾向にもなっている。

社会現象って、いろんなことが絡んでいます。結局は人の奪い合いじゃなくて、那珂市の自然増を増やしていけばいいんですけども、あとはやっぱり那珂市に住んでみたい、那珂市で子どもたちを育ててみたいっていうそういう雰囲気をつくっていくことが大事でしょうね。それはやっぱり努力をしていくというふうに思っております。

そういうことが根本的には大事なのかなと考えているのですが。

○榊原委員 子育て支援の補助的なもの、常陸太田市は少し上乘せしているところもあると思うんですけども、私子どもを4人育てていて一昔前から比べると、助成金など実はその財政的なものがすごく優遇されてます。

いろんな助成金として、高校も無償化になってきてますので、昔だったら私立高校、私が子どもの頃よく言われましたけど、うちは貧乏だから私立にはいかせられないと言われてましたが、今は比較的県立だろうが私立だろうが、安易に子どもを通わせられる。

そういうようなこれも単にやっぱり行政側の支援があるからだっていうふうに思っております。そこを踏まえて、あとやはり那珂市の売りになるっていうのが、市長も多分選挙の時に言われたのかと思うんですけど地の利ですよね。

これ災害のときによく分かるんだけど、那珂市は台地ですから、実に住みやすいところです。将来に対するやっぱり投資の部分に当たると思うんです、教育っていうのは、ですこここのところは他市町村よりも上乘せする形でアピール出来たときには、絶対那珂市はよくなってくると思います。

○小笠原委員 新婚で常陸太田市に住んでいる職員がいまして、子どもが小さいうちは常陸太田市に住んで、でも、学校に入れるときは那珂市と言っていた。これから保護者になる世代や現在の保護者の世代にどうわかりやすく、教育をアピールしていくかというののもっとも大事で、もちろん地域の方の支えがあつてのことですけれども、やっぱりいざ学校を選ぶのは、保護者であるということと、それから生活していこうって考える世代も、やっぱりある程度絞られてくる。となると、その人たちがもう本当に子どもを産みやすく育てやすく、そして教育も、なかなかいいらしいよ

ということであれば、これは公立だったり、私立に行かなくたって、教育の内容が充実しているというところで人数は人数で少ないところによく見てもらえるし、多いところだって、最先端のすごくレベルの高い教育を実際にやっているんだよというところをどうわかってもらえるのかなと考えているんですけども。

○先崎市長 はい、私は非常に今感動しました。

あの、今日、例えば見てきた木崎小学校だって、核融合研究所の皆さんの力を頂いて、人の体が磁石で浮く。ダイヤモンドで氷をカットする。液体窒素でつくった風船を床に落として割ってみる。なかなか普段、経験出来ないですよ。ああいうことを、きちんとPRをする。那珂市はそういう学校なんだよ、小学校で液体窒素使う学校なんかはないよ。物を作ったり自然に触れたり、いろんな特色があると思うんですけども。

特にそういう保護者さんのイメージ、内容はよくわかってないけれども子どもをどういう子どもになってほしいか。

いきなり科学者とは言わないでしょうけども、那珂研の職員さんが来ると、木崎小学校の子どもたちに、皆さんの中からぜひ、科学者になる子がでてほしいというって言いますよね。

学校のイメージにつながっていく、那珂市の教育につながっていくそれぞれの学校が持っているものが那珂市全体の教育のイメージに繋がって那珂市に住もうかというふうになってくるかもしれないですよ。非常に大きなヒントかもしれない。特に、小規模校なんかでも、自分たちの先を悲観しないで、卑屈にならないで持っているものをもっと磨こうというふうに進んでいくなっていうのは、一つの方向性なのかなっていう感じはします。

○住谷委員 小中一貫の保護者の方々の方からも、那珂二中なんですけど、浸透したというふうに思うんですね。

他の地域の方なんかも、那珂市の小中一貫教育は、そういうふうに非常に成果が挙げられているということを認識しだしたということはある。

ひたちなかで働いているのですが、そこは過疎化で複式ばかりになっちゃったんですが、子どもたちの教育は那珂市が一生懸命やっているという話を聞いている。また、この辺は危なくて、道路から落ちこちそうなので那珂市に引っ越したいという人もいます。

家を探してくれって言われて、那珂市に来たいっていうんですね。ですから、そういう意味では、那珂市の良さは浸透してきている気がします。

もうちょっと頑張りどころかなと。市が一体となって那珂市はいいところだから来てよと那珂市はいいところですよっていう、宣伝の必要があるかなと。

○中澤委員 那珂市で子どもを育てたい、先ほど話に出ましたが若い世代へのアピールっていうのは、どうするかということも大切なことなのかなあと思う。

説明されたように、那珂市の小中一貫教育というふうなことで、少し地域に浸透してきましたが、地域の中においては、あそこの中学校でどういふことをやっているのか、どういうところがいいのかが、まだわかってないところもあると思うんです。

今まで、6年生から7年生に上がる時において学校訪問っていうのは卒業間近にやっていたんですよ。

一学期の早い時期に子どもたちに部活はこんなのがあるんだよ、中学校の入学体験みたいなことを早めにやっていく。こういう取組をしているのという話が広がって行って、地域にあの学校がこんな素晴らしいっていう話が浸透していく。それがアピールっていう風な形になるのかな。アピールしていくには、この学校のすごいな、そういうふうなことから、その学校、地域に行きたいってなるのかなって思っていますけれど、学校として先ほど言ったように、入学体験に力を入れてやっていただいて、うちの中学校はこんなに素晴らしいなという、アピールをぜひともしてくださいというふうなことをこの間、お願いしてまいりました。

○大縄教育長 今、小中一貫校になって、10年、15年に向けてどうしようかということでも市としても、校長先生に相談しながら、進めていて、今やっていることが委員さんの意見を拝聴したら、今我々が向っていること、そして今後目指そうとしていることは間違っていない。そういう自信を持って一言を各委員さんからいただいたのかなっていうそんな思いをしました。

我々はどうしても教育の面から考えますので、その他にも考えなくちゃいけないんですけど、その他はそちらにお任せして我々教育の分野として何ができるのか。

どうしていくのがいいかというのを改めて考えさせられるものと、今やっていることは間違っていないかと自信を持って進めようという、そういう思いも今してるところです。

○榊原委員 小中一貫校教育は特色がありますので、ぜひ今現時点で言っちゃうと、すごく自信持って通ってくださいと言える学校だというふうには認識しています。

○小笠原委員 小中一貫校に加えてやっぱりその保幼小中連携でほんとに小さいうちから特に保育園幼稚園っていうのは、保護者との関係もすごく密でいろんなことを心配してる話も聞く。

小学校は、那珂市で勉強すれば大丈夫だよってやっぱり自信をもって言えるっていう環境もあり、それもまた、幼稚園や保育園の先生たちも那珂市すごいなって。自分は保護者じゃなくても、イメージが積み重なっていくことで、保護者に勧められるっていうこともあって、広告や宣伝をするという大々的なPRも必要ですけど実は、日々の那珂市すごくいいからっていうその小さな取組だけでも、決して侮れないなって思っているところですね。

○先崎市長 那珂市の教育って素晴らしい。小中一貫教育もそうだし、いろんな意味で那珂市頑張っているんだよね。頑張っているって気づいた人がどんどん発信をしていく。

他のイベントなんかもそうかもしれないし、これは行政が出すいろんな情報の中でもメリットとデメリットはあるんですけども、メリットはやっぱり発信していくってというのが、教育の中では大事だと思うんですね。いいところを褒めてやるってというのは、教育の基本だったりしますから。

よく茨城は魅力度ランキングの47位で、よく話すんですけども、全国からきて水戸駅で降りてタクシーに乗って「偕楽園に行ってくれ」って言うとお客さんいま行ったって何もねえよ、なんもねえよ偕楽園は」と言ったそうです。それじゃ駄目だと、もう少しね、「ちょっとたったら秋の萩がきれいになります」とか。もてなしが下手くそだ、それは、観光の話だったんですけども、教育も同じで、もっといいところをあげていく。それが自信につながっていく。発することによってさらに自分たちもまた頑張っていく。言った以上責任ありますからね。

だから、そういう良いスパイラルをつくっていくことが那珂市を全体的に見れば、効果があるかもしれないですよ。

○榊原委員 せっかくなんで、市長がトップセールスで売り込んでいただいて、トップセールスよろしくお願いします。

○先崎市長 先ほどから話が出ているように那珂市は住みやすいとかね。そういうのがこれは多分先輩方の努力なんですよ。いろんなところでそういうことを積み上げていったのが今に繋がっている。

那珂市は住みやすいって言いますから。現実いろんな課題もあるんですけども、これまで以上にトップセールスをやりますので。

先ほどの小規模校の話にちょっと戻っちゃいますけど、小さい学校でいうと、なかなか雰囲気固まってしまうというのが懸念としてあると思うんですね。

例えば、学校行事の中だといろんなところから、子どもたちの多様性とかいろんなものを伸ばしていくっていうのも大事。

地域の方々と合同で運動会なんかやってこれも一つ大事ですよ。

それがやっぱり子どもたち同士の感じ方、教育上はどうかわからないですけれども、いずれ児童数、子どもたちを増やしていく効果を発揮していく、そういうふうになれば。

○**榊原委員** わかりやすいのが中学校の部活の問題だと思うんですね、団体競技に中学校でいうところで合同チームっていうのは結構出てきましたよね。そこで結局成立してるわけですね。活動が出来てるっていうところはやっぱり、お考えいただければありがたいなとか。

○**先崎市長** ここまで先生方に話してもらいましたが部局ではなにかありますか。

○**小橋教育部長** 学校教育課に来る前、秘書広聴課においてシティプロモーションっていうのを担当してました。シティプロモーションの基本方針とか行動計画をつくってました。

そのときにやっぱり那珂市の良さをどうアピールしていくか、そのときに職員として何が出来るかっていう、そういう視点で、地方創生、総合戦略の絡みだったんですけども、やっぱり人を増やすには何を魅力にしているかっていう、そういう議論をしながらやっていました。

いろんな各部署からの、いろんな取組が出てきましたけども、そのあと、学校教育課に異動して、教育委員会の職員になったときに本当に皆様方のお話にあったとおり、那珂市の教育のよさ、素晴らしさっていうのも、今度はそっち側の立場で、日々実感しています。

イメージとか、そういう言葉も出ましたけども、やっぱりその一般の人には大きなイメージでしか捉えられない、何となく、委員の方も言っていましたけど。「何となくいいね」というイメージの「何がどういいのか」を発信したい、ものすごくそう感じます。

なかなか、教育の深いところまでうまく言えないんですけども、アピールするひとつひとつの素晴らしいものを積み上げていく、それがじわじわ広がっていけばいいと思うんです。大きく総合プロデュースで、那珂市の教育の良さを、シティプロモーションの担当部署と役所の間じゃない人にもっと大きなプロデュースをお願いして発信したら、ものすごいことになるんじゃないか。中身をわかってるからこそ、すごい衝撃を与えられるんじゃないかって思ってます。

なかなか外に出すその力が不足してるところが非常に自分でももどかしく、また小中一貫教育の取り組みの話をしたときに多分教育を知っている方は、那珂市のやってることは、すごいって評価してらっしゃるんだと思うんです。そういう話を聞きます。外部の人に聞きますとすごいと。

すごいなっていうが、なかなかその若い世代、お母様方お父様方の中で、うちの子どもを那珂市で教育を受けさせたいことに直結しないのが、もど

かしい。もっとできることが私たち行政の立場でできることがあるんじゃないかな。教育委員会委員の皆様、学校の先生方がやってることを、もっと何か、バックアップ出来ないかな、そういう思いがしてます。今日は特にそれを感じました。

○先崎市長 かつてひたちなかは100年塾教育というスローガンでやっていた。100年で形をつくっていく、そういう国家100年の計から掛けたんですよね。そういうスローガンでやりました。

学区の中でコミュニティをつくるので、子どもたちを巻き込んで、発信しようという、そういうワンフレーズで市を語れる。

かつて友部町なんかも友部学。それは学校も社会も地域もみんな含めて、友部学というワンフレーズで、きちんと発信しようという、やっていましたね。

だから、そういう総合プロデュース的なものができるんだったら、内外にもっと発信する。ここもやっぱり現場で頑張ってる先生方とか、教育委員の皆さんとか、そういう方の頑張りがあって初めてそれができるっていうところがありますけどね。

○榊原委員 部長の話に大変感銘を受けました。シティプロモーションでつくられている「いい那珂暮らし」という動画、いろんなものを見させていただいて、やっぱり素朴に思うのがアクセス回数が少ないんですよ。

300回ぐらいしか多分再生されてないんですね。いや、ものすごくいいものなんです。皆さん見て下さい。ですので、今部長が言われたとおり、動画をもものすごいものを発信してアクセス回数がものすごくあったときには、効果はありますよね正直。というところを加味した上で、やるとすごくいいものができるんじゃないかって一瞬思いました。

○住谷委員 やっぱり那珂市がいいのは、人のよさです。私はついこの間まで鍵を閉めたことがなかったんです。というのは、泥棒がないんですよ。

人のよさというものに支えられて那珂市はやってると思いますので、那珂市民の人のよさに少し自信をもって我々がいかに直にアピールするかっていうことですけども。

○先崎市長 そうですね、警察の話聞いても、犯罪件数、認知件数は非常に少ないです。例年下がってるっておっしゃってました。ですから、そういう点では治安もよくなってるんでしょうね。

小さいものは少しありますよね、地域の方々や公安の方々の努力ですね。そろそろ時間ですけども最後に教育長、いかがでしょうか。

○大縄教育長　まとめてくださいますして市長のいろいろな思いを伝えていただいたので、私がここで改めて申し上げることもないんですけども、貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。

毎月やっている定例会だとなかなかこういった意見交換はできないんですけども、市長を交えてのこういう機会を持ってよかったという感想を持っています。

意見を聞かせていただいて、何点か。まず1点、今日、説明をしました市の額田小、木崎小に関しましては、私が教育長を拝命したときに那珂市の方では5年を目途にコミュニティスクールを積極的に進めるということで、那珂市は最終結論を出す予定なんですけれども、このままだと多分義務化ではなく努力目標でいくんじゃないのかな。

やはりどうしたらいいんだろうかということで当時の校長に、いわゆるコミュニティスクールにしちゃいますと、やはり組織を立ち上げて、予算づけをして、何か事業に取り組みなくちゃならない。

でもこれってどこの学校もやっていることなんです。今日皆さんからご意見あったように、既存の組織をうまく活用して、そして学校をバックアップしてくれる、そういう応援の組織をつくりたい。そういうわけで木崎小と額田小の当時の校長にお願いしたわけです。

木崎小は、チーム木崎小として当時5つのグループに教育支援をしていただいた。額田は地域としてやってたんですけども、組織として、あらたまって、学校と一緒にやろうというのがなかったのをそれを当時の校長に要望して、額田連絡協議会というので立ち上げていただいて、今5年目を迎えております。

これを那珂市版としたのはそういうことなんです。地域が学校を盛り上げてくれるなら何かしなくてはいけない。ですから、今、話をしてしまいますけれども今年からカリキュラムの作成に入りました。

そこに実際、この内容のこの教科のときには地域の誰さんが入ってくれる。例えば、絵画なんて言ったら、図工の時間のこの単元にこの人が入ってもらおう。書道だったら国で書道塾の先生を学校に入れなさいというような方向になってきています。

そういった方を入れていくということがやっぱり地域と学校がこれからつながっていく。やはり、前回の一昨年のときの地域コミュニティってなんだろうと話がありましたが、やっぱりそこにつながっていくんじゃないかな。単純に、先ほども話題になりましたけど、児童生徒数が少なくなるから、学校統廃合しましょうではない。私はそんな考えは持たない。

市長も全くその考えは同じじゃないのかなというふうに私は認識してるんですけども、地域を大事にしたときにはやはりこの特色あるそういう活動というものは大事になってくる。

そう考えていくと、最後に皆さんからたくさん今日意見をいただきました。校長も、特色ある学校づくりに、今懸命に努力をしているところです。

ご存じのように、先ほども出ましたけれども、今までは学校経営っていうか、校長が学校経営案、グランドデザインっていうんですが、それを作っていました。

お願いして、学園のグランドデザインをつくってもらっています。学園制をもっと意識して、那珂市の小中一貫教育は出来ないかということで。もうすでに3つの学園がそれで進んでいます。残りの2つも今年度前半にかけて、それができる。

そうすると、10年に向けて、那珂市の小中一貫教育がさらなる充実を迎えてくる、そう考えると今やっている小中一貫教育が新たなステージに向かったの更なる第一歩を進むスタートになってくるのが、今年あたりなのかなと。

そこはコロナが大きなきっかけでもありました、正直。

あわせて、国のほうで学習指導要領が、昨年度小学校、今年度中学校、来年度高校が変わります。

そうになっていったときに先ほどの話じゃないですけども、那珂市の教育をどう充実させていくのか。

教育委員会に課せられた大きな課題でもあります。

14校の学校の校長と全教職員が一緒になって理解をしてそれを進めてくれている。市教委と学校長会、市内教職員ともうまく那珂市は連携がとれて進められていると思いますが、当然いろんなところを見れば、いろんな考え方もあるので、100%とは言いませんけれども、今、同じく環境において、歩みを進めていられるのかなという気がしております。

当然教育委員会でやる部分と先ほど話でありました、いろいろな取組をしていけばもっともっと那珂市の教育っていうのは充実が図られる。

例えばちょっと話ずれますけども、小規模校、木崎や額田はどうするのか。今、県のほうからいただいている予算でなんとかできています。複式、例えば木崎がありますけれどもできています。では県の予算がつかなくなったら、じゃあ統廃合になってしまう。

最終的には、それが児童数が本当に10人になっちゃったらそれは考えなくちゃならないことですけども、その前にまず教育の質、中身をどうするのか。

そういう環境整備、条件整備をどうしていくのかっていうのも、私たちも、一緒になって考えているところです。那珂市の教育のイメージアップにつながってるし、さらなる小中一貫教育の充実につながる。

今日はいただいたご意見、私たちが先ほど自信という言葉を使って、述べさせていただきましたが、それをどうしていくんだっていう新たな課題をいただいたこともあります。これを具体化していかなくちゃならない。じゃあ、指導室としてどう指導していくのか。学務の方としてどうやっていくのか。そういったことも考えていかなくちゃいけない。

市教委全体それから教育委員の皆さんの意見をいただきながら、さらには、市長をはじめ皆さんとさらなる協議を進めながら、さらなる那珂市の教育の充実発展にみんなで進んでいけたらと思います。いい意見をいただきました。皆様に感謝をして締めさせていただきます。以上、私なりの思いを述べさせていただきます。

○先崎市長 ありがとうございます。私のほうも今後も、教育委員会との連携で進めていきたい。よろしく願いをいたします。進行を事務局に戻します。

○会沢総務課長 ありがとうございます。続きまして、次第4のその他で、事務局から何かありますか。

○事務局 今後の総合教育会議の開催月時期についてですが、現在のところ、まだ決定しておりませんので、これにつきましては改めて、今年度、もう一度やるのか、それとも来年度以降にするのか、改めて調整のほうをしまして、ご連絡させていただきたいと思いますので、その際にはよろしくお願いいたします。

○会沢総務課長 ありがとうございます。

それでは、以上をもちまして令和3年度第1回那珂市総合教育会議を閉会といたします。慎重なご協議ありがとうございました。